

## プログラムの概要

### 【プログラム名称】

公立豊岡病院臨床研修プログラム

### 【プログラムの特徴】

地域中核病院の特長を生かし、一般症例から稀少疾患まで豊富な症例を経験することが可能で、2年の研修期間を通じてプライマリ・ケアの基礎的診断能力を備えた医師の養成を目指します。

さらに、大学病院や県立病院などにおける研修機会を提供することにより、専門領域のさらなる習得を可能とするプログラムとなっています。

### 【プログラム目標】

医師としての人格を涵養し、医師及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、プライマリ・ケアを中心とした一般的な診療に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付ける。

### 【研修科目・期間】

1 年 次			
月数	24週 (6カ月)	4週 (1ヶ月)	8週 (2ヶ月)
ローテート 診療科	内 科 (一般外来)	救 急	麻 酔 (1ヶ月は救急)

2 年 次		
月数	4週 (1ヶ月)	40週 (10ヶ月)
ローテート 診療科	地域医療 (在宅医療) (一般外来)	選択研修(各診療科の選択は組合せ自由) ※ただし、到達目標を達成できるよう診療科を選択する必要あり ※協力型臨床研修病院(0≤2ヶ月):京大病院、神大病院、県立尼崎、八鹿病院、神戸中央市民、加古川中央市民

1 ~ 2 年 次				
月数	4週 (1ヶ月)	4週 (1ヶ月)	4週 (1ヶ月)	4週 (1ヶ月)
ローテート 診療科	外科	小児	産婦	精神

1 ~ 2 年 次
4週 (1ヶ月)
救急外来日当直 (Walk-in)

#### 1. ローテートの運用

豊岡病院では、ローテートの運用を月単位で行う。そのため、必修科目では、月のうち4週を超える研修日数については選択研修を行ったものとみなす。

## 2. 必修科目の経験年次

1年次に内科(24週)・救急(8週(うち、4週は麻酔科))、麻酔(4週(救急として認定するもの以外))、1~2年次の間に外科・小児科・産婦人科・精神科各4週、2年次に地域医療(4週)を経験する。

## 3. 一般外来

一般外来は、基本的に総合診療科・地域研修(必修または選択研修)で計4週の研修を行うが、不足分については選択科目の期間内に補うものとする。

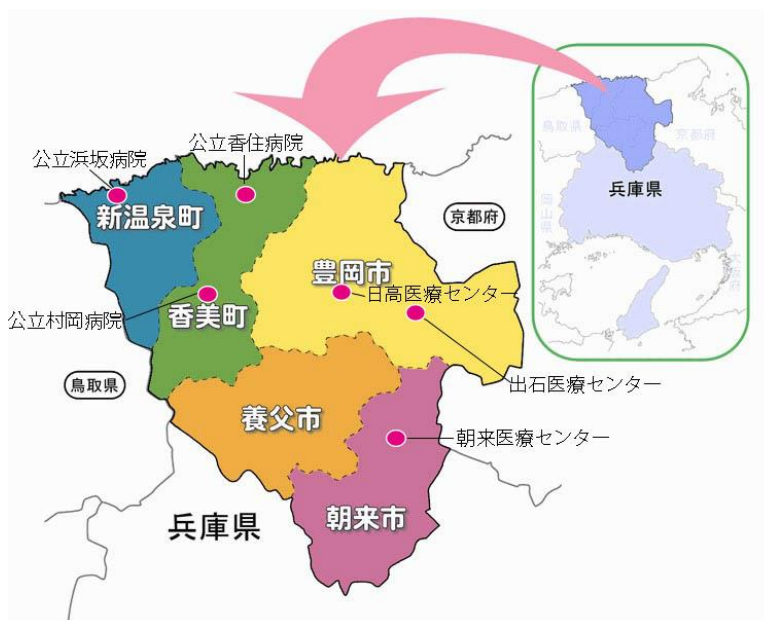
## 4. 救急

救急(必修12週)は、1年次の救急外来(4週)、麻酔科(4週)と2年間を通じて行う救急外来宿日直(月4回程度)等により合計12週の研修とする。また、救急では豊岡消防署において、救急車同乗実習を行う。

### 【地域医療・在宅医療・一般外来】

へき地医療に従事する指導医のもと、プライマリ・ケアを中心とした総合医・家庭医の役割や病診連携の取り組み、在宅医療の経験などを通じて地域医療の役割を学ぶことができます。

また、並行して特定の症候や疾病に偏ることなく、初診患者の診療及び慢性疾患・患者の継続診療を含む一般外来研修を行います。



### 【選択研修科目】

本研修プログラムでは、基幹型病院である豊岡病院のほかに、次の大学病院・協力型臨床研修病院と病院群を構成して臨床研修を行いますので、基幹型病院にはない診療科や高度先進医療を含めた専門性の高い研修も可能となっています。ただし、豊岡病院外での研修は最長 8 週までとし、研修管理委員会の許可を受ける必要があります。

#### 豊岡病院

総合診療科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器科、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、精神科、小児科・新生児科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器・心臓血管外科、泌尿器科、産婦人科、麻酔科、病理診断科、リハビリテーション科、救急集中治療科

#### 京都大学医学部附属病院

血液・腫瘍内科、糖尿病・内分泌・栄養内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、免疫・膠原病内科、老年内科、神経内科、腎臓内科、消化管外科、肝・胆・膵・移植外科、眼科、産科婦人科、小児科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、整形外科、精神科神経科、放射線部、麻酔科、救急部、脳神経外科、形成外科、心臓血管外科、呼吸器外科、検査部・感染制御部、輸血部、病理部、地域ネットワーク医療部、乳腺外科、小児外科、NICU、SCU、がん薬物治療科

#### 神戸大学医学部附属病院

総合内科、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、膠原病リウマチ内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、腫瘍・血液内科、感染症内科、放射線科（放射線腫瘍科を含む）、小児科、皮膚科、精神科神経科、緩和支援治療科、食道胃腸外科、肝胆膵外科、乳腺内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、産科婦人科、形成外科（美容外科を含む）、麻酔科、救命救急科、病理診断科、リハビリテーション科

#### 兵庫県立尼崎総合医療センター

ER 総合診療科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、血液・腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、漢方内科、膠原病リウマチ内科、消化器外科・外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科、小児科、小児循環器内科、小児外科、救急科、小児救急科、放射線科、病理診断科

### 神戸市立医療センター中央市民病院

循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、総合内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科、新生児科、皮膚科、外科・移植外科、乳腺外科心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急科

### 加古川中央市民病院

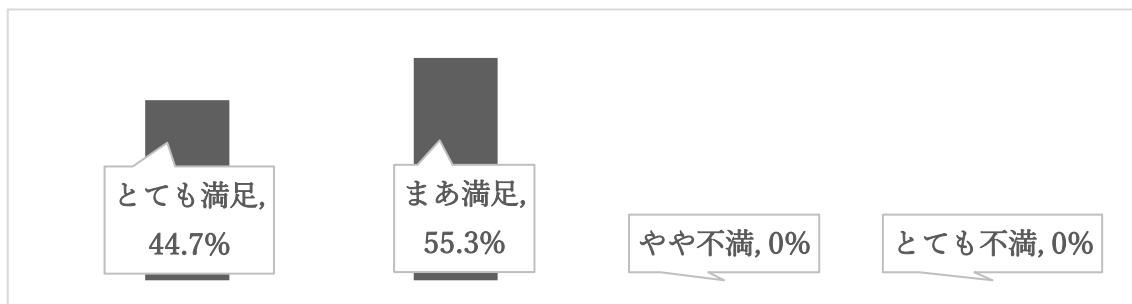
総合内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝内科、腫瘍・血液内科、リウマチ・膠原病内科、腎臓内科、脳神経内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、麻酔科、精神神経科、病理診断科、救急科

### 公立八鹿病院

循環器内科、消化器内科、麻酔科、救急科、外科、整形外科、緩和ケア、放射線科、産婦人科、総合診療科、耳鼻咽喉科、脳神経外科

#### 【研修の満足度】

アンケート結果（平成16～27年の間に豊岡病院で研修を行った89名中38名が回答）



- ・日々成長を実感できた。現在の診療にとっても役立つ2年間だった。
- ・1年間でしたが、医師として最も良いスタートと思います。(神戸大学たすきがけコース)
- ・実際に研修医が第一線で治療に関与できること、指導の先生方がどの方も熱心に教えていただけたこと、同期も皆熱心であり良い影響を受けることができたこと。また、他病院から講師として多くの先生方が来て教えていただく機会を設けてくれたこと。
- ・多くの症例を経験できたことが非常に素晴らしい財産になりました。
- ・当直などを通して救急医療診察の力(度胸?)がついたと考えます。全科を通して垣根が低く、相談などがしやすかったです。

### 【たすきがけコースの案内】

次の臨床研修プログラムでも、豊岡病院での研修が可能です。

- ・京都大学医学部附属病院群Bプログラム（豊岡病院臨床研修プログラムの2年目研修医に準じて研修を行います。）
- ・京都大学医学部附属病院群Cプログラム（豊岡病院臨床研修プログラムの1年目研修医に準じて研修を行います。）
- ・神戸大学病院群初期研修プログラムたすきがけコース（豊岡病院臨床研修プログラムの1年目研修医に準じて研修を行います。）

### 【研修医の処遇】

身分： 会計年度任用職員

勤務時間：8:30～17:15

休日： 割振りによる

年次休暇：1年次10日、2年次11日 その他（夏季休暇5日、病気休暇、結婚休暇、忌引き休暇等）

給与： 1年次289,768円/月、2年次301,020円/月（給与月額・地域手当）、期末手当の他、超過勤務手当、副直手当、夜勤手当等を当院の規定のに基づき、支給

住居： 研修医宿舎（病院敷地内）1K30 m<sup>2</sup> 賃料6,300円/月（自己負担）

保険・年金： 雇用保険、社会保険（任用1年目は健康保険・厚生年金、任用2年目は共済組合）、災害補償（任用1年目は労働災害、任用2年目は公務災害）

医師賠償責任保険：病院医師賠償責任保険加入

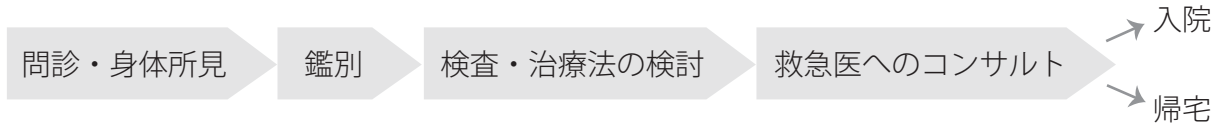
その他：学会・研修会等参加時の交通費・宿泊費・参加費支給、

食事：食堂あり

# 経験症例 I (当直 / 救急外来)



- ・帯状疱疹
  - ・頭部外傷
  - ・閉塞性黄疸
  - ・尿路感染症
  - ・意識消失
  - ・細菌性腸炎
  - ・群発性頭痛
  - ・小児肺炎
  - ・小児屈筋腱断裂
  - ・頻脈性不整脈
  - ・胆のう結石症
- など一晩 10 症例程度を経験



# 経験症例 II (ローテート期間)

内科を中心にローテートした S 研修医  
合計 262 症例

外科を中心にローテートした N 研修医  
合計 281 症例

腸管感染症	1	肝疾患	6
結核	1	胆のう<囊>、胆管及び膵の障害	15
その他の細菌性疾患	3	消化器系のその他の疾患	2
ウイルス肝炎	2	皮膚及び皮下組織のその他の障害	1
ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病	2	炎症性多発性関節障害	1
その他のウイルス疾患	1	全身性結合組織障害	2
真菌症	1	筋障害	1
消化器の悪性新生物	65	滑膜及び腱の障害	1
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	19	その他の軟部組織障害	1
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物	1	腎臓細管間質性疾患	4
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	9	尿路系のその他の障害	3
良性新生物	2	妊娠期間及び胎児発育に関する障害	2
性状不詳または不明の新生物	2	周産期に発生したその他の障害	1
無形成性貧血及びその他の貧血	1	眼、耳、顔面及び頸部の先天奇形	1
血液及び造血器のその他の疾患	2	消化器系のその他の先天奇形	1
免疫機構の障害	1	消化器系及び腹部に関する症状及び徴候	3
糖尿病	2	全身症状及び徴候	1
その他の内分泌腺障害	2	腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷	1
代謝障害	1	自然開口部からの異物侵入の作用	1
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	3	多部位及び部位不明の熱傷及び腐食	1
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	3	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	1
気分 [感情] 障害	3	外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	1
生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	1	腸管感染症	1
錐体外路障害及び異常運動	1	その他の細菌性疾患	4
神経系のその他の変性疾患	1	家族歴、既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態に関連する健康障害	2
多発 (性) ニューロパチ<ン>及びその他の末梢神経系の障害	1		
高血圧性疾患	1		
虚血性心疾患	12		
その他の型の心疾患	11		
静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	4		
循環器系のその他及び不明の障害	1		
急性上気道感染症	1		
インフルエンザ及び肺炎	9		
その他の急性下気道感染症	1		
慢性下気道疾患	1		
外的因子による肺疾患	4		
主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	1		
下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態	2		
胸膜のその他の疾患	5		
呼吸器系のその他の疾患	1		
食道、胃及び十二指腸の疾患	9		
ヘルニア	1		
非感染性腸炎及び非感染性大腸炎	1		
腸のその他の疾患	7		
腹膜の疾患	1		

食道、胃及び十二指腸の疾患	3
虫垂の疾患	8
ヘルニア	65
非感染性腸炎及び非感染性大腸炎	1
腸のその他の疾患	11
腹膜の疾患	1
胆のう<囊>、胆管及び膵の障害	24
消化器系のその他の疾患	3
全身性結合組織障害	1
その他の結合組織障害	1
尿路系のその他の障害	2
虚血性心疾患	6
肺 性心疾患及び肺循環疾患	1
その他の型の心疾患	7
脳血管疾患	1
動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	4
静脈、リンパ管及びリンパ節の疾患、他に分類されないもの	7
消化器の悪性新生物	57
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物	14
中皮及び軟部組織の悪性新生物	2
乳房の悪性新生物	10
部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物	6
リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	7
上皮内新生物	1
良性新生物	1
性状不詳または不明の新生物	2
インフルエンザ及び肺炎	4
慢性下気道疾患	1
外的因子による肺疾患	6
主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	1
下気道の化膿性及びえ<壊>死性病態	3
胸膜のその他の疾患	4
その他の細菌性疾患	2
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	2
気分 [感情] 障害	1
栄養性貧血	1
血液及び造血器のその他の疾患	2
免疫機構の障害	1
股関節部及び大腿の損傷	1
外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	2
循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候	1
消化器系及び腹部に関する症状及び徴候	1
糖尿病	1
家族歴、既往歴及び健康状態に影響を及ぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	1

※2年間の研修で担当医となった症例のみを抽出 (退院サマリーより)

## 麻酔科



麻酔科部長  
正田 丈裕

当院の研修プログラムでは麻酔科研修が 2 ヶ月あります。このことに対して、これまで研修された研修医からは麻酔科の研修期間が 2 ヶ月は長いという意見もありました。しかし、「お客さん」ではなく麻酔科をしっかり研修するためには少なくとも 2 ヶ月は必要と考えています。実際、1 ヶ月目でとりあえず麻酔とはどのようなものか全体像が分かってきます。2 ヶ月目で指導医の指示のもとで ASA1-2 の患者の麻酔をかけることができるようになります。短期間の中途半端な研修をするよりも時間をかけてしっかりと研修をしたほうが有意義であると考えています。

麻酔科では他の科を回る前に習得すべき基本的な手技を習得できます。例えば静脈路確保は麻酔をかける前には絶対必要ですので毎日練習できますし、気管挿管も出来るようになります。また、昇圧剤の投与の仕方も習得できます。動脈ラインの確保も練習できます。救急科を回っても緊急性が高く、ゆっくりと上級医から指導を受けられないことが多いと思います。麻酔科を回ることによって緊急時対応の基本的な事は習得できると思います。

当院の麻酔科の特徴は、心臓外科をはじめ多くの種類の手術の麻酔を行っている事、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の患者の麻酔を行っている事、緊急手術の麻酔が全体の約 3 割と緊急の割合が多いという事です。是非、豊岡病院で研修しましょう。

## 救急集中治療科

但馬救命救急センター Tajima Emergency & Critical Care Medical Center (TECCMC)

医師として何年働くか考えたことはありますか？概ね 40 年といったところでしょうか。医師という職業は毎日が勉強です。しかし、医師という職業を支える礎は最初の数年にかかっているといっても過言ではありません。また 6 年間医学部で勉強し医師国家試験合格した後、その知識を実践可能なものにしたくありませんか。

これらの目的を達成するには、ありとあらゆる患者、疾病・疾患を数多く診ることが手っ取り早く、確実な方略になります。もちろん専門的な知識、技術の修得も大切なことです。そして何よりも優秀で熱意ある指導医の存在が不可欠です。

TECCMC には救急科指導医・専門医、集中治療専門医、外傷専門医、外科指導医・専門医、小児科専門医などを持ち、臨床研修指導医資格を有する 20 名を越える救急医が 24 時間、365 日専属で勤務しています。救急医学、集中治療学を専門としている医師集団です。そして院内全科 ON CALL 制で、必要時はいつでもコンサルト可能です。初期研修医の日当直業務は救急医と共に救急外来、救命救急センター勤務を行い、主には WALK IN 患者の First Touch を行います。問診、身体所見から鑑別を行い、必要な検査、治療を考え、バックアップの救急医に必ずコンサルトを行い診療が完了します。さらに選択研修の TECCMC 研修期間中は救急車対応、ICU 管理も指導医と共にを行います。2 年間の研修実績を記録する EPOC 2 の「経験症例・疾患の記録」は、毎年 TECCMC での経験内容で埋められています。

ドクターヘリ、ドクターカーでの患者集約化による豊富な症例と充実した指導体制を持つ TECCMC および当院で医師人生の盤石な礎を築いて下さい。待ってます！！



但馬救命救急センター長  
救急集中治療科部長  
小林 誠人

# 指導医からのメッセージ

## 総合診療科



呼吸器内科部長・総合診療科医長  
中治 仁志

今後の日本は高齢化社会が進展していくことが確実視されています。高齢化社会における医療の中で総合内科医の重要性が指摘されています。総合内科医の診療には各症例において多数の問題点・病態が存在するため、これらを整理した上で最も妥当な判断をする能力が求められます。

公立豊岡病院の総合診療科では一般内科初診症例のトリアージや common disease の診療に留まらず、各領域の専門医と連携をとりながら専門的な疾患の診断および先々の治療にまで行うことにより、各疾患や病態についての診断、治療について深く理解することができます。

特に総合診療科と呼吸器内科は共同で診療しており、肺炎をはじめとする一般的な疾患から悪性腫瘍などの専門的疾患の診断、治療を含めた全てを担うことによって内科医としての醍醐味を味わうことができます。当科では毎日入院症例のカンファレンスを行っています。カンファレンスは堅苦しくない自由な雰囲気の中で各症例に対しての議論ができる環境です。各指導医・研修医が様々な症例の経験や知識を共有することにより一緒に学び、成長していくことを目標としています。内科以外の診療科を希望する研修医にとっても総合診療科での研修は今後の診療に役立つ多くの知識と経験を得ることに繋がるものと考えています。是非豊岡病院で研修しましょう。

## 消化器科

消化器科は現在、スタッフ7名で診療業務を行っています。当院は病床数約500、癌拠点病院、3次救急病院であり急性期から慢性期まで、また良性疾患から悪性疾患まで幅広く診療しています。

特筆すべきは消化管出血に対する緊急内視鏡的止血、総胆管結石に対する緊急 ERCP など緊急処置が多いことです。また悪性疾患に対しては早期胃癌、早期大腸癌に対する内視鏡的切除術、また手術不能進行癌に対しては緩和としての胆管ステント留置、消化管ステント留置など積極的に行っています。

研修医の先生にはこれらの患者様の担当医になっていただき、指導医とともに治療にあたっていただいております。従いまして研修医の先生には第一助手として様々な処置に参加していただいております。スタッフが少ないこともあり研修医の先生は重要な戦力であり、決してお客さんや雑用係ではありません。処置に参加することで自分の患者様、という意識が高まり患者様との人間関係構築にも寄与すると考えています。

また当科では研修医の先生に積極的に上部消化管内視鏡検査を行っていただいております。消化器研修の醍醐味は、内視鏡に触れることであると考えているからです。せっかく研修にきていただいた先生に見学だけで終わらせないように内視鏡モデルによるシュミレーション、次に実際の検査における内視鏡の抜去、そしていよいよ内視鏡の挿入、というように進めていき2カ月の研修終了時には普通に挿入から抜去まで出来るようになっていただいております（もちろん観察は2カ月ではまだまだです）。是非当科で消化器の面白さ、そして辛さも学んでください。



消化器科部長  
上田 通雅



# Q & A

---

**Q** ローテーションはいつ頃決定しますか？

**A** マッチング発表後(11月頃)に希望診療科のアンケートを実施して、研修開始前(3月頃)にローテーション表を発表します。

**Q** ローテーションの変更は可能ですか？

**A** ローテーション変更前の診療科と変更後の診療科の了承があれば変更は可能です。(ただし、研修期間内に到達目標を達成できるように診療科を選択する必要があります。)

**Q** 豊岡病院にない診療科を回りたいのですが。

**A** 豊岡病院プログラムの2年目選択研修科目では、京都大学・神戸大学・尼崎総合医療センター・神戸市立医療センター中央市民病院、加古川中央市民病院、八鹿病院での研修が可能となっていますので、マイナー科を含めた豊富な選択肢が提供できます。(院外での研修は最長2ヶ月までとします。)

**Q** 当直は何月頃から始まりますか？

**A** 4月中頃から開始します。当直に慣れるまでは2年目研修医とペアで当直を行うので安心です。

**Q** 研修医宿舎はありますか？

**A** 病院の敷地内に研修医宿舎を設けています。希望者全員に提供が可能です。

**Q** 勉強会はありますか？

**A** 尼崎総合医療センターとの合同テレカンファレンス(1回/月)、救命救急センターが主催する実技講座(8回/年)・TECCMC勉強会(1回/月)・院内災害講義(7回/年)などが開催されているほか、内科では診療科ごと又は全体のカンファレンスが曜日ごとに組まれています。(院外での研修は最長3ヶ月までとします。)

**Q** 研修に対する要望は聞いてもらえますか？

**A** 豊岡病院では毎月研修医ミーティングを開催して、研修医から研修全般の要望を聞き取り研修環境の改善に繋げています。

**Q** 豊岡まで移動するのにどの位の時間が必要ですか？

**A** 関西の主要都市からの移動時間は概ね次のとおりです。  
京都市 鉄道：2時間20分 自動車：3時間10分  
大阪市 鉄道：2時間30分 自動車：2時間30分  
神戸市 鉄道：2時間30分 自動車：2時間15分  
阪神間から自動車で来院する際は、北近畿豊岡自動車道 日高神鍋高原 IC までの利用が便利です。